「授業づくり」レポート

書く力を高める取り組みについて

座間市立相模中学校　則岡　利昭

１　はじめに

　論理的文章の書き方について講義を受け、現在の授業にどのように取り入れるか考えた。いきなり長文の課題を出すことは難しいし、処理も困難なので、条件を与えたうえで１００字の課題を与えることにした。入試問題も記述が増えていることなどを説明し、はじめは書き方を決めて書かせたので多くの生徒が無理なく作業することができた。

２　指導内容

　教材名「動物園でできること」三省堂　現代の国語２

（１）全文通読

（２）形式段落に分ける→意味段落に分ける（序論・本論・結論）

展示の工夫の具体例が本論であることを伝え、意味段落に分けさせた。

（３）筆者の考えをつかませる→結論の部分を読み、動物に対する筆者の考えをとらえさ

せた。

（４）本論を要約する→展示の工夫の３例をそれぞれ１００字にまとめさせた。

　　「オランウータン」「キングペンギン」「エゾシカ」の３例をそれぞれ１００字原稿に

まとめる。

　　原稿はA５サイズで作成し、縦書き、１マス１字、字数以内で書く、改行しないことなどを説明し、「オランウータン」については書き出しの２０字を統一した。また、前半に「展示の工夫」について、後半に「学びの場」について書くように指示した。作業時間は２時間で行った。できあがった人から、前に見せに来ることにして、ABCで評価した。Aをもらった人は次の課題に移らせた。原稿はそのままノートに貼らせることにした。（ノート提出時に見る）

最初は細かい部分まで書いて、肝心なことが書けない生徒が多かったが、周囲と相談することを認めたので、徐々に修正できるようになった。また、早く終わった生徒は移動自由とし、困っているものを援助するようにしたので、普段書くことが苦手な生徒も取り組むことができた。

３　指導をしての感想

　　今回、「論理的に書く」ということを意識して授業をしてみたが、「論理的である」ということ自体は指導できたとは言えないと思う。条件を整えたことにより「何を書けばよいか」が明確になり、多くの生徒が取り組むことができたと考える。

　　文章を考えて、書くという作業は誰でもできるようで、実はとても勇気がいる作業だと考える。特に、自分の文章の自信のないも生徒は、最初の言葉を選ぶことも冒険である。さっさと終わらせる生徒と、全然進まない生徒が混在するのが教室である。すべての生徒が取り組むことでき、達成感を得られるという授業がある程度はできたと思う。